

物価高に対応し、県民生活を応援します

令和8年度の奈良県予算は「物価高対応・県民生活応援予算」と命名し、ひとり親世帯の児童1人あたり2万円の現金給付、1万円で1万5千円分の買い物ができる商品券の発行、賃上げをする中小企業への補助金交付などの新しい政策を盛り込みました。予算の詳細は本号の特集記事をご覧ください。

我が国経済は「失われた30年」と言われるようにバブル経済崩壊後、長らくデフレが続きました。2022年からインフレになったものの、そのインフレ率が大き過ぎて家計のやり繰りにゆとりがなくなっています。ただ、2025年のインフレ率は3.2%と高かったものの、今年1月は前年同月比で1.5%と少し落ち着いています。一般的に2%前後のインフレ率が好景気を示すと言われており、その程度に収束するようになれば、我が国経済がようやくデフレを脱却し、好景気に向かっていること自体は歓迎すべきとも言えます。

ところで、「失われた30年」の間に、日本と欧米諸国との間で物価と賃金の水準に大きな差がつき、今やその差は1.5～2倍ほどあります。最近欧米を旅行された方はその物価の高さに驚かれた経験があるでしょう。日本も物価上昇と同じスピードで実質賃金が増えれば問題ないのですが、そうならないことが一番の問題です。そうなるまでの間、県としても様々な物価高対応策を講じてサポートしてまいります。



奈良県知事
山下真

毎月11日は人権を確かめあう日

人権 コーナー



支え合いの中で育つ力

私が以前勤めていた小学校では、3学期に入ると、休み時間のたびに、子どもたちの我先にと縄跳びを手に校庭へ向かう姿が見られました。難しい技に挑戦し、何度も失敗しながらも、諦めずに縄を回し続ける姿。ようやく跳べた瞬間に見せる笑顔に、思わずこちらまでうれしくなります。

印象に残っているのは、なかなか跳べない友だちに向けて、「あとちょっと!」「その調子」と声を掛け合う姿です。得意な子も苦手な子も、動き方やペースはそれぞれ違います。その違いをそのまま受け止めながら、工夫して教え合い、相手を待ちながら関わる姿がありました。できる・できないで人を比べるのではなく、挑戦や努力に目を向け、支え合う雰囲気教室に広がっていました。

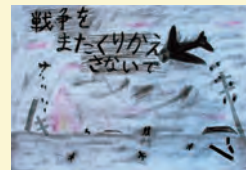
新学年になり仲間が変わっても、互いの挑戦を認め合うことができたなら、子どもたちは安心して力を伸ばしていけるでしょう。そうした学びの土台を支えていくために、困りごとのサインや、声にできない思いを見逃さず、「ここにいていい」と感じられる場をつくっていくことが必要だと感じています。

新しい始まりの季節に、あらためてそのことを大切にしていきたいと思います。

今月のポスター



斑鳩町立斑鳩小学校3年
和田 心晴さん



曾爾村立曾爾小中学校4年
村山 虹子さん

※学校名・学年は作品制作時のものです。

県の情報はこちらでも
ご覧いただけます

SNS

Facebook
まるごと
奈良県



X
奈良県
公式



LINE
奈良県
公式



奈良県広報担当
VTuber
「奈々鹿」



県民お役立ち
情報コーナー
パンフレットなどを配置しています

県庁舎食堂(奈良市) 県産業会館(大和高田市)★ 県庁舎総合庁舎(橿原市)★
県立図書情報館(奈良市)★ 市町村会館(橿原市) 吉野町中央公民館(吉野町)★
★印のある場所および県庁舎1階受付横・屋上階には、専用紙で県政に関してのご意見・ご提案をお寄せ
いただく「県政ポスト」も配置しています。



県広報広聴課 ☎0742-27-8325 FAX 0742-22-6904